

府高教 ニュース

2018年8月30日 (木)

速報 No. 2

発行所：大阪府立高等学校教職員組合
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11
大阪府教育会館707号
☎06(6768)2106 FAX 06(6768)1675
http://osaka-fuko.dyndns.org/
eメールosakafko@jn3.so-net.ne.jp

府教委、今後5年の再編整備計画(案)を公表 8月30日

府市あわせ8校を募集停止

【今年度実施対象】勝山を桃谷ⅠⅡ部と統合し多部制単位制に

道理のない高校つぶしは撤回せよ

府教委は8月30日の教育委員会会議で、「大阪府立高校・大阪市立高校再編整備計画(2019(平成31)年度から2023年度)」(案)と、同計画の「平成30年度実施対象校(案)」を公表し、「様々な意見を踏まえ11月の教育委員会会議で最終決定する」としました。その内容は、中卒生の減少を口実に、来年度から5年間で新たに「府立高校・市立高校あわせて8校程度の募集停止」を行うとするものです。これは、「少子化」のもとでも教育条件改善に背を向け、子どもたちに過酷な受験競争を強い、「学ぶ権利」を奪う、道理のない高校つぶしであり、断じて容認できません。

◆「8校募集停止」は必要ない

府内公立中卒生の数は、2009年度に7万人となり、その後約7千人増加した後、再び減少に転じて、2018年度に7万人、今後は6万5千人程度まで減少して下げ止まると推計されています。「計画」は、「昼間の高校」(全日制、多部制単位制ⅠⅡ部、昼夜間単位制昼間部)の計画進学率を「93・9%」、公私受け入れ比率の公立分を「66・7%」(それまでの「77・3」が自由化された2011年度から昨年度までの平均値)として、2024年度(「計画」最終年度)の公立総募集定員を40560人と試算、これは2009年度の45000人から▲4440人(▲111学級)減となるので、15校程度の募集停止が必要であり、すでに府立6校、市立1校(2減1増)の廃校方針が決定されているので、今後「8校程度の募集停止」が必要としています。

しかし、これは「1学級40人」「1学年7クラス」を不動の前提としているからであり、仮に府教委の計画進学率や公私比率を前提とした場合でも、他道府県ですすんでいる「35人学級」や全国平均である「1学年6クラス」で計算すれば、学校を減らす必要は全くありません。「少子化」のもとでせっかくな生まれてくる教育条件改善のチャンスを生らつづし、保護者・府民の願いに背を向ける「計画」は撤回すべきです。

◆勝山を多部制単位制新校に

府教委は「計画」の今年度実施対象校として、「3年連続定員割れ」となっている勝山高校を桃谷高校ⅠⅡ部と統合し、2020年度から多部制単位制の新校とする(校名は学校関係者の意向を踏まえて決定)とし、「不登校経験者など様々な理由により自分の生活スタイルやベースに合わせた高校進学を希望する生徒を受け入れる学校とする」「原則として1学年200人程度、35人程度の少人数でのクラス展開を基本」としています。

桃谷高校については、ⅠⅡ部を募集停止する一方、通信制昼間部の募集定員を拡充し、Ⅲ部はそのまま定時制にするとしています。

◆工科9校は存続し35人学級に。20年度〜今工・藤工・佐野工

府教委は、工科高校について「引き続き9校により人材育成を行う」とし、学校規模について「原則として1学年6学級35人編成とする」としています。今年度実施対象校として、「3年連続定員割れ」となっている藤井寺工科高校については、「志願者数改善の見込みはあると判断」とし、今宮工科高校、佐野工科高校とあわせて、2020年度入学生から6クラス募集35人学級に改編するとし、他の6校についても、3つの重点化タイプ(高大連携・実践的技能養成・地域産業連携)から各1校ずつ、次年度以降順次改編するとしています。

学校規模の縮小や少人数学級の実施は、この間府高教が粘り強く要求してきたものであり、教育条件の大きな改善です。しかし、「二層きめ細かな指導を行う」というのであれば、エンパワメントスクールや工科高校に限ることなく、普通科を含めたすべての学校でただちに実施すべきです。

◆夜間定時制の「学校配置のあり方」を検討

府教委は、夜間定時制について「学校の小規模化が一層進んでおり、円滑な学校運営にとって課題が拡大している」などとして、「学校配置のあり方を含めた対応方策を検討する」としています。

府教委は、15年前の2003年度、夜間定時制を半減させる14校廃校を強行しました。高校進学を願う子どもたちの「最後の砦」である定時制高校をこれ以上つぶすことは許せません。

◆国際関係3科を国際文化科8校とグローバル科2校に改編

府教委は、現在合計10校ある、国際文化科、国際文化科、国際科(グローバル科)について、「英語はもとよりその他の外国語や様々な国の文化等を学習する機会の充実」を掲げる国際文化科8校と、「海外大学進学に照準を合わせた教育内容」「卓越した英語力」などを掲げるグローバル科2校に改編するとしています(両科とも募集学級数は原則2〜4学級)。

府教委は2014年度以降、池田北・咲洲・西淀川・大正・柏原東・長野北の6校の府立高校の募集停止・廃校方針を決定し、能勢高校の分校への格下げを強行しました。この背景にあるのは、「3年連続定員割れで再編整備」の府立学校条例です。また、大阪市も、南・西・扇町の3高校統廃合(22年度〜)と公設民営中高一貫校(水都国際)の開校(19年度〜)を決定しています。

「学ぶ権利」保障のための公立高校の定員に「ゆとり」があるのは当たり前です。理不尽な条例の撤回と、高校つぶし計画の撤回を求める府民的運動が求められています。府高教は、大阪の高校を守る会と連携し、とりくみに全力をあげます。

子どもたちの「学ぶ権利」をまもれ！
高校つぶし反対！学習決起集会
■9月22日(土)午後1時半 ■府教育会館2階「コスモス」